



# 有明高専だより

第95号  
1998.6



校長談話	2
新入生オリエンテーション	4
新任教職員紹介	5
退職教官Q & A	6
4年生研修旅行記	8
留学生紹介	10
卒業式	11
卒業生の進路・表彰	12
学生表彰	14
岱明寮だより	15
春季球技大会	16



# 校長からの「便り」(1)

## —最近の校長あいさつから—



山藤校長

「皆さん、こんにちは」で始まる校長あいさつは年間数十回にも達します。昨年度も、数えてみると87回——もう1回で米寿(?)——でした。しかし、その内容についてはご存知の方が多いのではないかと思います。そこで、新しい試みの一つとして、最近のあいさつの中から2、3の話題を選んでその抜粋をお届けすることにしました。

### 「創造性」がこれら の工業技術者に は求められる

と声を大にして呼ばれています。有明高専の教育理念にも、「創造性を發揮できる個性豊かな技術者の育成」が重要な項目の一つとして掲げられています。しかし、そのためにはどうすればいいのかということになると、創造性を發揮できるように求められている学生自身も、そうなるように指導する立場の教官も、アドバイスする立場の保護者も、みんな内心では困惑しているのではないでしょうか。

それは、一つには、創造性という概念が広すぎてつかみどころがないせいだと思います。似たような話としては、これから若者には学問を身につけさせなければということで子息を上京させて高等教育を受けさせる風潮がかつてありました。送り出される若者達にも「学問」がどういうものかはわかつてはいなかったのではないでしょうか。それぞれの人にとっての学問があるように、それぞれの人にとっての創造性があると思うのです。

しかし、学問を学ぶには「い、ろ、は……」から始めるように、創造性を身につけるにも、学生自身が、身の周りの状況を生き活きした目で眺めて、何か不満足なことがあればそれはなぜだろうと考え、どうすれば改善できるかについて工夫をすることから始めるべきではないでしょうか。誰もが内心困惑しているのは、その先の高級なことを頭に描こうとしてのことでしょうが、その前に、「い、ろ、は」も知らない子供達には教育もできないし、自分で学ぶことも不可能だということにまず着目してほしいと思います。

### 有明工業高等専門学校は 高等教育機関です

高等教育は自分の意志で教育を受けると決めた人達のためにあるものです。皆さんがまわりの人達の意見を参考にしながらも、自分の意志で本校を志望し入学してきたという事実がすでにそのことを物語っています。したがって、皆さんは、義務教育を受ける「生徒」

ではなく、高等教育をうける「学生」なのです。自分の行動に自分自身が責任を持ち、学びつつ自己を向上させていくける「大人」になるためのトレーニングを、自分の意志で行なう人達なのです。それは、高等教育の本質が、皆さんが持つて生きてきた優れた素質を自分自身で学びつつ伸ばしていくための手助けをするところにあるからです。

創造性を伸ばすのも自分自身なのです。自分は天才でも何でもないんだから創造性なんて持つて生まれてきてるはずがないと、初めからあきらめるのは早計に過ぎます。伸ばしてみないことには自分自身の能力がどのくらいのものかもわからないではありませんか。

皆さんが創造能力を伸ばすのは、工業技術者として生きていく上で大事なだけではありません。人間は一回しか生きられません。新しい何かを自分の頭脳と手で創り出す喜びは経験した人でないとわからぬくらい大きく、人生に張りをもたらします。皆さんがこれからの新時代に適応できる創造性豊かな工業技術者に育っていくことは、たった一度しかない人生の毎日毎日を夢と希望に満ちた生き甲斐を感じながら過ごしていく人に育っていくことでもあるのです。

普段気がつかずに見過ごしているけれど、**考えてみるとおかしいな**——ということは、皆さんの身のまわりにもたくさん転がっています。たとえば、勉強はあまり好きでない人も多いようですが、これも変ですね。人間は生きて行くためには生活の糧を得る必要がありますが、「人はパンのみにて生きるにあらず」と聖書にもあるとおり、皆さんは、自分の生き甲斐を実現しうる生活の手段として工業技術者への道を選んだからこそ、有明高専に入ってきたのではないでしょう。そうしてみると、有明高専でしっかり勉強するのは、誰のためでもなく、自分の将来のためですね。それなのに、なぜ勉強が嫌いなのでしょう。何だか変ですよね。そこで、「嫌なものは嫌なのだとあきらめないで、嫌でないように工夫してみたらどうだろう」と、私が言ったとしたら、皆さんは、たぶん「勉強が楽しくなるなんて、いくら工夫してもできっこない」と言うでしょうね。でも、はたしてそうでし

ょうか?

私の高校時代にすごく頭の良い友達がいました。その友達がある時私に小さな英語の単語集を見せました。そこに約2万語の単語が載っていましたが、彼は「今日から2ヶ月の間にAから始めてZまでこの単語を全部覚えてみせる。覚えた分はこうするのだ」と言って、最初の一枚を破り取ってグッと飲み込んで見せたのです。私は「スゴーイ」と感心しました。彼が単語集の堅い紙をグッと飲み込むことができるのに感心したのです。

その後2ヶ月経っても彼が黙っているので「どうなった?」と尋ねたところ、彼が渋々見せた単語集はCの欄の半分までしか破り取られていませんでした。結局、彼は途中でギブ・アップしたのです。なぜでしょう? 私に言わせれば、彼が英語の単語を覚えるという勉強の一部分を自分に「義務」だと思ひこませ、そして、それを、「単純作業」として実行しようと試みたからだと思うのです。毎日机に向かってムニヤムニヤと覚えて、ピッタリ破ってグッと飲み込む——そういう単純作業を義務として毎日続いていると、飽きてしまつて嫌になる。——これは人間の本性なのです。

英語は英国の人達にとっては私たちの日本語と同じく母国語です。皆さんの中で英語をペラペラしゃべれる人はあまり多くはないのではないかと思いますが、日本語なら、小学校に入った頃にはじゅうぶん話せていたはずです。しかし、その頃日本語を覚えるのが嫌だったでしょうか? 絵本、テレビ、漫画など、遊びの要素も入れながら飽きないように覚えたのではなかっただろうか? それが、勉強だと思ったとたんに国語も英語も学ぶのが嫌になるのでは、勉強の仕方に工夫が足りないと言われてもあながち不合理な指摘とは言えないのではないかと思うのです。

先生方もそれなりに勉強を楽しくする工夫をしながら学生時代を過ごしてきたと思います。しかし、他人が工夫した方法は自分には合わない場合が多いのです。勉強を楽しくする方法を工夫してみるのも創造能力を付ける一つのトレーニングだと思って、自分の得意な科目から始めてみてはいかがでしょう。

### 21世紀がもう間もなく始まります

今、皆さんの身のまわりの社会を含め、日本が、世界が大きく変わりつつあるのです。インターネットなどの情報を伝え合う手段が発達して世界は実質的にどんどん狭くなり、世界中の人が、経済的にも、政治的にも、環境面でも、科学技術面でも、お互いに強く影響し合いながら生きていく時代になるでしょう。しかし、一方では、今のままでは、世界の人口がどんどん

増えて食料やエネルギーの消費が生産を上回るようになり、環境破壊も進んで、世界中の人達に深刻な影響をもたらすようになってしまふでしょう。そのような事態を克服して、私達を含めて世界中の人々が豊かに暮らしていくには、まず地球環境や身のまわりの生活環境を壊さず、むしろ良くしていくような科学技術の一層の発達が求められます。

そのような時代を担っていく工業技術者には、今までのように単に科学技術の発達のみを追い求めるではなく、皆さんの次の世代に伝える良質の文化や教養を育て継承するとともに、良い環境を育ててそれと共に生きていくような科学技術を創造することが求められるでしょう。皆さんには、そういうことができるよう自己を磨き、向上し続けうるような、豊かな能力を持つ良心的な工業技術者に育っていってほしいと思います。

**子は親の背中を見て育つ**——と、昔から言われています。高専時代は大人になる前の一番大切な期間で、家庭の協力なしには健全な大人に育つのはむずかしいのです。高専生くらいの年齢になると、親の言うことは素直には聞いてくれませんが、しかし、両親がどういう風に考え、どのように行動しているかはジッと見つめています。まだ一人前の判断力が十分には発達していないところから、その行動には家庭の雰囲気の影響が色濃く反映する場合が多いようです。

有明高専は同年代の学生が通う他の学校よりも緩やかなルールを設定していると思っていますが、それは子供達にできるだけ伸び伸びと育ってほしいと願っているからです。したがって、決まっているルールについてはしっかりと守ってほしいと願っています。ご家庭でも「自分達も反対だからそんなルールは守らなくてもよい」というお考えは捨てていただきたいと思います。ルールの内容についてご意見があれば学校のほうに直接申し出でいただければ真剣に検討させていただきますが、決まっているルールに対して「個人的に反対だから守らない」というのでは、社会の秩序は保たれないのではないかと思うのです。

ご両親が注意される、されないにかかわらず、また、親の言うことを聞く、聞かないにかかわらず、子は両親の考え方や行動をジッと見つめています。

子育ての正念場に当たるこの5年間を過ごされるにあたり、「子は親の背中を見て育つ」という言葉をかみしめられて、子の模範となる大人として行動していくだけよう、たいへん差し出がましいとは存じますが、大切なお子様のためですので、衷心からお願い申しあげます。

# 新入生オリエンテーション

平成10年5月6日～8日

於・阿蘇青年の家



## 研修で学んだこと

1M 鍋田 治利

僕は、この「新入生オリエンテーション」に参加して、いろいろなことを学んだ。この3日間、友達のことや高専について、いろいろなことを知った。この研修で学んだことについて、いくつか紹介しよう。

まず、「あいさつ」について学んだ。最初は、あいさつを全然していなかった。しかし、相手からあいさつしてきたのでいつもあいさつをかえしていただけだった。あるとき、2日目に来た小学生が元気にあいさつをしてきた。「こんなに小さい小学生の方が礼儀を知っている」と思うと自分が恥ずかしくなってきた。このときから、僕はあいさつをしようとした。

次に、「見通し」について学んだ。来た頃は、何をしていいのかわからなくて悩んでいた。でも2目にはちゃんとスケジュールを確認して、見通しをたてるようになれたのでそんなに悩まなかった。そして、見通しを立てたので時間を有効に使えた。見通しというものがこんなにも重要なものだとは、全く知らなかつた。

そして、集団行動について学んだ。つどい等は有明高専以外の人達も集まるので、迷惑にならないように、特に気をつけて行動した。この集団行動では、「一人でも自分勝手な行動をしたら、他の人達にも迷惑がかからってしまう」ということをゆっくりと考え直すことができた。

このように、研修ではいろいろなことについて学んだ。しかし、これらには、「他人への思いやり」という共通点があるように思う。僕は、これらのことだけでもわかつてよかったです。そして、これからも、高専での生活でいろいろなことを学びたいと思っています。

## 阿蘇研修を終えて

1E 井上 広樹

僕がこの阿蘇研修を終えた今、何が心に残り、何を反省すべきか考えてみると、この研修で一番印象に残り、学んだと思うことは、時間を守る大切さです。だいたいどの場所でも集まるのは必ず10分前。はじめは、きちんと守っていたけれど、途中一度だけ10分前に集まることができませんでした。その時僕は、「まだあと5分あるけん大丈夫やん」と思いました。しかし、後々部屋に帰りこのことをしっかり考えてみると、軽いことなのではなく、とてもみんなに迷惑をかけ、やってはいけないことだと深く反省しました。それはもし僕が将来社会に出て、重要な会議や集まりに遅れたら、会社全体の信頼などを深く損ない、あやまってすむようなことではないと思ったからです。このことは学生である僕らは、遅れてもあやまってすむことが多いかもしれないけれど、少なからず何人かの人はとても迷惑しているのだと思いました。

この阿蘇研修は2泊3日という短い期間でしたが、多くの友人や他校の生徒との交流や、とても重要なことを学び、楽しいだけではなく、自分自身この研修で少しだけ成長したような気がします。

高専生活の5年間は、まだ始まったばかりだけど、高専生活を十二分に楽しく、自分の為になるようがんばっていきたいです。



## 新任教職員 Q&A

●新任教職員の方々を次のQ1～4で紹介します。

- Q1 本校へ来る前は Q3 趣味は  
Q2 本校あるいは本校学生の印象について Q4 抱負を一言



電気工学科助教授  
松野 哲也

A1 九州大学大学院システム情報科学研究科（電子デバイス工学専攻）で、神経回路網モデルとしての結合振動子系における情報処理ダイナミクスを研究してきました。

A2 礼儀正しい学生さんが多いですね。また、教職員の方々は学科を越えて、お互いに良く知り合っておられていて、大変いい雰囲気ですね。

A3 科学に関する啓蒙書を読むこと。一流の科学者が予備知識のない人たちに、どのように自分の専門分野のことを説明しているのかに興味があります。「QED - The Strange Theory of Light and Matter-」(R. P. Feynman, Princeton Univ. Press 1985)が、私のお勧めの本のうちの1つです。

A4 自分の専門分野と教育スタイルの確立が最重要課題です。特に研究において、自分の存在意義を早く見い出したいと常に考えています。



一般教育科教授  
浅野 泰一

A1 東京都武蔵野市にある工業用化学分析計を製造販売する電気化学計器(株)の研究開発部門に、32年弱勤務しました。この間、主に「化学センサーの開発と計測法への応用」という業務に従事してきました。

A2 教育と研究に意欲的な高専であるとの印象を持ちました。また学生らしい学生が多く、将来への可能性を秘めているのではと感じます。

A3 若い頃は軟式テニスをやっていました。今は、都市散策、写真撮影と特定のジャンルの音楽鑑賞です。

A4 私の担当は一般化学なので、基礎的理解を深めることに力を置き、社会や産業界の話題を折り込みながら、私の授業が環境との調和を目指した次世代の技術者育成の一助になればと考えます。また、高専らしいコストパフォーマンスの高い研究を「バイオレメディエーション、免疫簡易計測、表面プラズモン、有害有機物、シーケンシャルインジェクション、高感度、汎用」などをキーワードに計画中です。



物質工学科助教授  
富永 伸明

A1 長崎大学薬学部薬品生物化学助手

A2 高専は私にとって初めての場で、かなり違和感を感じていますが、大学とは違った教育経験ができるで期待と不安が入りまじっています。高専生は、特に1～3年生が制服のせいか、純朴な印象を受けます。しかし、受験がないためか少し競争心が足りないようです。ぜひ、高専の良さを利用して才能・興味を伸ばしてほしいと思います。

A3 下手ですがテニスです（いいわけになりますが、最近は時間が取れずほとんどやっていません）。

A4 最近の社会の動向に注目しますと、高専でも環境工学は重要な位置をしめると思います。環境への工学的配慮には化学、物理だけでなく生物の知識が不可欠です。高専ではじみの少なかった生物系の教科、実験、研究の導入が一つの役目と考えますので、多くの学生が生物について興味を持つように努力したいと思います。



物質工学科技官  
山口 明美

A1 大分市の大分短期大学園芸科で2年間園芸の勉強をしていました。農場実習もあり、以前よりも体力がつきました。

A2 高専というと堅そうなイメージがあったのですが、思っていたほどではありませんでした。ただ、男子校風の新入生歓迎行事には驚きました。

A3 犬の散歩です。平日はなかなか行けないので、休日によく散歩に出かけています。また、短大の時に生花の準教授免許を取ったので折を見てまた習い、教授免許まで取りたいと思っています。

A4 まだ何もできず、周囲の方にかなり迷惑をかけいますが、自分なりに毎日少しづつ勉強し、早く仕事を覚えたいと思います。

# 退職教官 ~お疲れさまでした~

本年3月末をもって退職された3名の先生方に、次の3点について述べていただきました。

- Q1 高専で最も思い出に残ることは?
- Q2 高専あるいは、学生に望まれることは?
- Q3 最後に今後のことについて一言



機械工学科  
堤 清康

A1 わずか3年間の在職でしたが、何もかも懐かしい思い出で一杯です。

3学年の担任を受け持ち学生を身近に知り得たこと、研修旅行の数々。その中でも卒研を通して3年間にそれぞれ形のあるものを残せたことで、私自身にとっても制御の基本原理を具現化することができ勉強になりました。学生にとっては当初は応用製作に不満顔であったが、試行錯誤の完成で、結果的にいくつかの研究テーマを見い出し得た、このことが大切で卒研の半分は達成したと言えよう。自分のものとして理解できた自信は私の思いもつかない発想をしてくるようになり、ここまでくるとしめたもので、学生共々思わず「やった」と叫んで喜んだ、あの創った満足感が忘れられません。

A2 人間形成の発達段階で一番重要な成長期の5年間を、今何をなすべきか、その年代にしかできないことがあります。くだらない校則に拘束されることもなく、高等教育機関として自主独立と、国立として恵まれた教育環境にあって、他に比較して充実した施設・設備、先生も含めて大いに活用すべきで、受け身の授業を消化するだけでなく、部活動やボランティア活動など何事にも挑戦(challenge)して、そして考え、疑問を抱き、改良(change)していくことが理解を深め、発見・発明となり創造(creation)となり得るであろう。そうして実践的な学生との評価が高専の存在価値を確立することになるでしょう。

A3 緑豊かな那珂川町にちょうど3年前にいくらかのゆとりある新居を構え、数多くの教え子が訪ねて来て、活躍振りを聞くのが一番の喜びです。二期工事の書斎兼工房が今年に完成して、趣味

の陶芸・絵画の創作活動を始めたいと思っていますが、非常勤講師とはいって、日・祭日のみしか自由時間がなく、当分あきらめ気味である。また誰も引き受け手がないものとみえ、骨董趣味が変じて町の文化財保護委員を命じられ、改めて本格的な考古学の勉強の必要を感じています。日本文化のルーツでもあり、発展途上国としての中国に友人をも訪ね、多方面で交流を深め得ればと思っています。



物質工学科  
三浦 博史

A1 有明高専でのあらゆるできごとが私にとっては忘れがたい思い出です。工学系でない、しかも、定年間近い私が、青春真っただ中の高専生に教育することになったわけですから、とまどうことばかり。それだけ、私には貴重な人生経験になったわけです。まさに「たかが3年、されど3年」(これが私の最終講義のときの演題)の3年間でした。

こういうわけで、思い出を挙げればきりがありませんので、卒業研究に関することだけにします。高専より第93号の「研究室訪問」でもふれましたが、悪戦苦闘(ほんとですよ)しただけに懐かしさもひとしおです。私の研究室に配属された卒研生は、最初の年が7名、次の年が5名。その多さにあ然としました。まだ工業化学科で、生物系の学生でないのに、植物バイオがよほど物珍しかったのでしょうか。研究に必要なものがほとんどそろっておらず、しかも、思ったような結果が出にくく生物実験で、短期間に何らかの成果を出さねばならないですから、まさに一生一代の大博打(ちょっとオーバーかな)でした。卒研発表で学生に恥をかかせないようにという気持ちだけで乗り切ったよう

な気がします。

A2 「教師は、自分を変えずに、他人をえたがる」というのを、何かの本で見たことがあります。思い当たることばかりで、自分の戒めにしています。ですから、教訓めいた文を書くのは苦手なんです。以下の内容は、独り言と思ってください。このところ盛んに「ゆとり」の教育が呼ばれています。自分に「ゆとり」なくして「ゆとり」ある教育ができるはずではなく、忙しいといって手抜きだけはしたくないし、高専の忙しさには当初かなり悩みました。でも、私の場合、自然に親しむ中で身についた自然体のライフスタイルが「ゆとり」づくりに役立ちました。その分、「難しいことをやさしく、やさしいことを深く、深いことを面白く」の下準備にもう少しまわせればよかったのですが。

最後に、授業中に居眠りする学生に一言。落ちこぼれの最短距離です。そんな学生の将来を思うと、哀れにさえ思えてきます。努力し、できるだけ早く生活習慣を改めて下さい。幸せな将来のために。

A3 最近、新聞の投書欄「声」「若い世代」などにもよく目を通すようになりました。高専に勤め、そのような習慣が身についたのでしょう。すごくためになっています。「一生感動、一生青春」、「恥を知る生涯」を座右の銘とし、これから的人生を歩んでいきたいと思っています。



一般科  
塚本 祐右

A1 赴任して間もない頃、当時の校長(竹村)先生と雑談をしていた時のこと、私が不用意に「当校の生徒は」と言ったところ、「学生」と呼ぶように強く指導を受けました。そのとき当校では、普通の高校や大学と違った教育がなされていることに気づきました。以後肝に銘じて「学



生」と接してきたつもりです。学生諸君も今一度「学生」であることを大いに自覚し誇りを持ってほしいと思います。もう一つはやはり体育祭などでみせる学生諸君の目の輝き、すばらしい連帯感です。若さとすがすがしさ、頼もしさを感じました。その「やる気」を勉学のほうにも生かしてください。

A2 「クラブをしない学生の気がしれない」といつて卒業した学生がいましたが、私もそのように思います。勉学はもちろんですが、それにもう一つ加えて、高専生活をさらに充実させてください。幸い大学受験に縛られる事のない高専生はそのような恵まれた余裕のある環境にいると思います。若い時ある先輩から「趣味はなんでもよい、多いほうがよい、それだけ人生を豊かにするから」と言われたことも思い出します。どれかのクラブに属しクラブ活動を楽しみ、多くの人とつきあい、心を豊かにしてください。またクラブ活動で先輩に仕えることは、みなさんが後輩を指導するときに、大いに役に立ちます。みなさんはいずれ企業で部下を指導する立場になるはずですから、その時のためにもクラブ活動は大切だと思っております。私は高校時代は軟式庭球をやっていましたので、大学に入って硬式庭球部に入るつもりで、テニスコートまで行きましたが、あまりにもみんなが上手なので、しりごみをして入部を断念し、社会人になってみたいへん後悔をしました。

A3 今度こそあとがないですから、しりごみすることなく、上手とか下手だと考えず、好きなことを見つけて、充実した楽しい余生を送りたいと考えています。

# 行ってきました 研修旅行

平成10年5月12日(火)～15日(金)

## 機械工学科

僕達、機械工学科は、中京・関西地区へ行きました。

中京地区では日本ガイシとデンソーを、関西地区では三菱重工業高砂製作所を見学。どの会社も従業員が3,000人を超える大企業でした。3社とも工場内はとてもきれいに整理・整頓・清掃されていて、床の上には配線などが1本もありませんでした。無人搬送車が製品を運び、作業が素早く行われていました。また、自社で機械を製作して使用している企業もありました。特に三菱重工のガスタービンを作る機械は、何十メートルもある大きなものでしたが、ミクロン単位まで仕上げることのできる高精度の機械でした。古くなつた機械も、それを新しく改造して使うという工夫もなされていました。

近年、企業は国内にとどまらず、海外に工場を建設して売り上げを伸ばしています。日本ガイシの場合、海外での売り上げが会社全体の売り上げの6割弱を占めているそうです。これから先海外で仕事をする機会がますます多くなり、外国語が重要になってくるだろうということを改めて痛感しました。

今回の研修旅行で見たこと、感じたことを来年の就職活動に活かしていこうと思います。



## 電気工学科

私達電気工学科は、東京に行きました。1日目は、お台場で自由行動でしたので、“東京みなと館”へみんなで行き、東京湾の歴史から臨海副都心開発計画までを見てきました。2日目は朝から“(株)東芝京浜事業所”へ。東芝は家庭での電化製品で知られていますが、私達が見学した京浜事業所では、火力・水力・原子力発電機器だけではなく、宇宙関連機器などの製造・開発を行っていました。工場のいたる所に目標などがはってあり、印象的でした。午後からはNHK放送センターへ。ここには本校の卒業生もおられ、また、電気工学科の中川先生のかつての職場ということで、音楽番組の収録現場やスタジオの照明、音声の設備など、普通なら見ることのできない所まで見ることができました。NHKはみんなが勤めてみたいと言うくらい働き甲斐がありそうで魅力的な会社でした。3日目の自主研修の日は、渋谷や原宿で買い物もしました。最終日は羽田整備工場を見学。ここで、海外への飛行では、1回につき約2トンもの燃料を海に捨てると言聞いてとても驚きました。



今回の研修で、社会に出てどういうことをするのか、どういう仕事をしてみたいのかということが少しだけわかりました。このことを来年の就職活動に役立て、納得のいく仕事ができるように取り組んでいきたいと思います。

(4E・植田 麻美)



## 電子情報工学科

初日、福岡空港に集合したみんなは着慣れないスーツを着ているせいか、妙な雰囲気だった。耳が痛いのをがまんして飛行機に乗り、東京に着いたのはお昼頃。その後東芝へ。そこはとても大きな工場で、自動改札機やコピー機を流れ作業で作っており、その作業行程を見学した。午後は東芝科学館で流行りのハイビジョンの映画を見た。また、近い未来に、カード1枚ですべての買物ができるようになるという機械には本当に驚いた。夜、到着したホテルは、今までの研修の中で一番きれいだったので、嬉しかった。



2日目は日立でLSIができる行程を見学。複雑な回路は私達には理解不能だった。午後には皇居の近くにある国立科学技術館へ。ここは遊びながら技術を学べる所だったので、なごめた。緑も多くて空気がきれいだった。

最後の日はJALの整備工場で飛行機の整備を見学。飛行機1機が入る工場の外は、見渡す限りの滑走路で、その大きさと広さに感激した。操縦室に入ることもできた。

3日間、実際の企業を見て、私達に必要なのは自分をアピールすることとやる気だと感じた。企業の人達はみんな自分をアピールできていると、とても強く感じた。それはすごいことだと思う。

(4I・松本珠美江)

## 物質工学科

私達物質工学科は、ダイキン工業(株)・東レ(株)・三共(株)の3社と、大阪城及び海遊館を見学。数ヶ所の工場と製品の展示場を見学したダイキン工業(株)では、近年特に言わされている環境対策等について説明されました。また、先輩の話では、職場環境の充実が感じられました。東レ(株)では、ショールームとりサーチセンターを見学。ショールームの展示品などについて、細かく教えていただきました。また、先日の新聞広告でも、「東レリサーチセンターで安全性を確認」という説明がされているのを見て、改めて東レの事業が私達の生活に密着していることを感じました。三共(株)は、普段は見学を受けいれていないということでしたが、その分、素の会社の状況を見ることができました。社内の雰囲気も良く、機械の作業状況に関するこまでわかりやすく教えていただきました。



今回、3社をまわりましたが、それぞれの会社に特色があり、改めて就職について考えさせられました。ただ、先方の実直な態度に対し、訪問する側である私達の態度の中に、どれだけ真剣さがあったかと考えると、まだ社会に出るということを現実的な問題として考えきれていない甘さが見えます。研修旅行を通じて、今さらながら、社会に出るということについて再考したいと思います。

(4C・森田 玲子)

## 建築学科

研修で私は、数多くの建築物を見学し、多くの感動を得た。特に、法隆寺・薬師寺・東大寺・金閣・銀閣・清水寺といった伝統ある建築には、現代の建築とは違った素晴らしい感じを感じた。



法隆寺には世界最古の木造建築や飛鳥様式があり、それらは1,000年以上前からそこにあって、周囲の自然と一緒にとなっていた。薬師寺には白鳳様式の東塔と、復原された昭和の西塔が並び建っていた。また、金堂や中門も復原され、これらの復原された建築物と1,000年以上の時を経た東塔との対比が妙におもしろく感じた。東大寺大仏殿は私の木造建築に対する常識をくつがえすほど巨大であった。南大門の柱に残る傷は何百年もの昔、そこで繰り広げられたドラマを想像させてくれた。

金閣と銀閣は足利將軍の別荘である。贅沢ではあるが、その庭園は趣の深さを見せてくれた。清水寺は東山の中にあった。懸造の舞台から見る下界は緑豊かなこの場所とは異なり、濁っていた。まるで別世界にいるように感じさせてくれるほど、新鮮であった。

現代に残る歴史的・伝統的な日本建築は感動を私に与えてくれた。観光地になっていることは残念だと思うが、このような伝統・自然は先端技術と並んで日本が世界に誇ることができる立派な文化であると感じた。

(4A・牛尾恒太郎)



# 留学生紹介



マレーシア



ラオス

## E科3年 ジュナイディー ビン ハムザー

私はマレーシアの留学生です。マレーシアは2つに分かれています。マレー半島と東マレーです。マレー半島の北と南の方にはタイとシンガポールがあります。東マレーシアの隣にはブルネイとインドネシア(カリマンタン)があります。マレーシアは年中蒸し暑いです。マレーシアは民主主義の国です。今の首相はマハディールです。

2,100万の人口を持っています。主な民族構成はマレー系、中国系とインド系です。マレーシアの国教はイスラム教ですが他の宗教もあります。仏教とかキリスト教とか自由です。

今年8月にはコモンウェルスの国の試合<sup>※</sup>があります。今はクアラルンプールでいろいろな準備をしているのでちょっと忙しくなっています。

初めての日本なので、いろいろな日本の習慣と日本の生活をあまり知りません。日本の食べ物とマレーシアの食べ物と比べるとあまり辛くもなくあまり甘くもない。でもはやく慣れたいです。

また、日本の寒さにもまだ慣れていません。マレーシアは一年中暑いので、日本の冬にはたぶんちょっと困るかもしれません。でも冬もいい季節だと思います。

私は日本に着いたばかりなのでみなさん、いろいろ教えてください。教えてもらうとうれしいです。

※ the Commonwealth of Nations…英連邦の国々が参加するスポーツ大会



## C科3年 サヤサン ワンマコン

ラオスは東南アジアにある国です。私はラオスという国は小さくてきれいな所だと思っています。四方を国に囲まれています。東にはベトナムがあり、西にはタイがあり、北には中国があり、そして南にはカンボジアがあります。また北西にもミャンマーがあります。だからラオスの東西南北には海がありません。ラオスは17州に分けられています。首都はビエンチャンです。ラオスは山が多いので、北から南まで山が並んでいます。連なった高い峰、木は茂って森となりすぐれた自然環境になっています。川は小さいから、川の流れは急ではやいです。季節は2つあります。夏と冬です。夏は気温が30度以上になって、冬は気温が10度以下になります。

ラオスの生活は昔の習慣を守っています。服装や食事や住まいなど昔から同じです。ラオスでは民族衣装をしています。だから洋服を着るのは外国へ行くときです。入学式、結婚式、パーティがあるときは民族衣装を着ている人が多いです。民族衣装は値段が高いです。しかし色や柄に気をつければ、何年にもわたって着られます。民族衣装を見るのはだんだん増えてきています。

国ではラオス語、フランス語、英語を使っています。国教は仏教です。だから国にはお寺がたくさんあります。

私は有明高専は静かでいい所だと思います。先生方も親切でいろいろなことを手伝ってくれました。本当にうれしかったです。これからたくさん友達をつくりたいと思います。



▲前列左から3人目が筆者

## 送 辞

在校生代表 永田 和美

柔らかな日差しに心暖かな温もりを感じます今日この頃、この暖かさに後押しされるように、有明高専という季節から新しい季節へ移り変わろうとしている卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。

私達が入学したばかりで、まだ右も左もわからなかった4年前、先輩方はそんな私たちに様々なことを教えてくださいました。私たちはそれ以来ずっと先輩方の背中を見てきました。高専大会に向けて一生懸命練習していた先輩方、体育祭で声がかかるまで応援していた先輩方、高専祭の準備で夜遅くまで、着々と計画をねり、準備を進めていった先輩方。そのひたむきな姿の一つ一つが、私たちに感動を与えてくれました。そして今、私たちは「次は自分たちの番だ」という責任感を、ひしひしと感じています。

1年生から5年生までという、他の学校とは違ったこの「高専」という環境は、先輩方にとってどういう所だったでしょうか。どんな影響を与えたのでしょうか。私たちにとって先輩方に出会えたことは、とてもプラスになりました。先輩方から教わったたくさんのことを、今度は私たちが下級生に教えていかなければなりません。先輩方に負けないように、私たちはこの有明高専をしっかりと支えていくつもりです。

今、先輩方は一つのゴールでもあり、スタートでもある位置に立たれたわけです。就職して社会へ出られる方、大学へ進学される方、今日という日を境にしてさまざまな道へ進まれることになります。それは、どこまでも続く道であり、たくさんの壁があると思います。その道の途中で立ち止まつたら、この学校で出会った友人、ご指導された先生方、そして、あなた方を尊敬し、慕った私達がいたことを思い出してください。私達一同、この有明高専から応援しています。いつの日か、今よりもっと大きく成長された先輩方に逢える日を楽しみに、在校生を代表して、すべての感謝を込めて、送辞といたします。「ありがとうございました」。

## 答 辞

卒業生代表 村上 牧子



桜、舞い散る春4月、私たちは希望に胸膨らませ、ここ有明高専に入学しました。そして、校庭の梅もほころぶ今日の良き日、私たち174名は、高専生活を無事終了し、卒業証書を受け取りました。

校長先生の告辞、文部大臣はじめ来賓の方々のご祝辞や後輩の温かいお祝いと激励のお言葉をいただき、別れの寂しさを味わうと同時に、こみ上げる喜びを感じております。

思い起こせば、5年間はあつという間でした。体育祭、高専祭、研修旅行など楽しかったこと、苦しかったことが今ではただ懐かしく思い出されます。

自由な校風の中で自分の行動に対する責任の重さを知り、素晴らしい恩師、生涯の友と出会えた有明高専での5年間はかけがえのない時間だったと確信しております。人と人とのつながり、協力することの大切さ、自ら考え行動することへの責任の重さ、努力することの難しさ、そしてまわりの人々によって今の自分があるということなど多くのことを学ぶことができました。

今、私たちは期待と不安を胸に抱き、巣立とうとしていますが、これから的人生の中で苦しく困難な時にも自分の理想を失わず、自分を冷静に見つめ、常に明日の自分の姿や生き方を考えていきたいと思っております。

在校生の皆さん、これから高専生活を送るにあたって、自分自身をしっかり見つめ、悔いを残さないような道を選んでください。そして先輩や私たちがついてきた伝統を受け継いでください。

私たちも、今後は有明高専の卒業生として、学校の名を汚さぬように精一杯がんばります。そして一人の人間として、自分に責任を持てる人生を歩んでいくことを約束します。

最後に私たちの歩みを助け、ご指導くださった校長先生はじめ教職員の皆様、私たちを慕い、支えてくれた在校生の皆様、常に温かく私たちを見守り、支えてくださった保護者の皆様に感謝の意を述べ答辭いたします。

# 卒業生の進路

## 機械工学科

岩谷瓦斯(株)  
上野精機(株)  
(株)九州ノゲデン  
(株)九州三田技術コンサルタント  
(株)日産エアロスペースエンジニアリング  
(株)ハイテック  
(株)パスター<sup>12</sup>  
(株)富士通ビジネスシステム  
(株)メタリックスジャパン  
カヤバ工業(株)  
キヤノンコピア販売(株)  
京セラ(株)  
倉敷紡績(株)  
ソニー稻沢(株)  
第一精工(株)  
大日本印刷(株)  
東京エレクトロン九州(株)  
東レ(株)  
南星電機(株)  
西日本プラント工業(株)  
ハウス食品(株)  
日野自動車工業(株)  
富士ダイス(株)  
三菱重工業(株)高砂製作所  
三菱重工業(株)長崎造船所  
三菱重工業(株)広島製作所  
三菱電機ビルテクノサービス(株)  
森鉄工(株)  
Hitachi Semiconductor (Malaysia) Sdn. Bhd.  
九州工业大学  
熊本大学  
千葉大学  
長崎大学  
豊橋技术科学大学  
TCA 東京コミュニケーションアート専門学校

## 電気工学科

NTT 九州移動通信網(株)

(株)NTT ファシリティーズ  
(株)コスモスライフ  
(株)デンソー  
(株)日鉄エレックス  
(株)フジタカ  
(株)三井ハイテック  
(株)安川電機  
関西電力(株)  
九州電力(株)  
ダイキン工業(株)  
TDC ソフトウェアエンジニアリング(株)  
日通工(株)  
ビクターサービスエンジニアリング(株)  
日立電子サービス(株)  
平井精密工業(株)  
トステム(株)  
福博綜合印刷(株)  
日本電信電話(株)  
日本放送協会  
博多港埠頭(株)  
安川情報システム(株)  
リコータクノネット(株)  
大牟田消防署  
大分大学  
岡山大学  
九州工業大学  
代々木アニメーション学院  
九州工业大学  
熊本大学  
豊橋技术科学大学  
アトラス情報サービス(株)  
越智産業(株)  
(株)九州テン  
(株)サン有明電気  
(株)デジタルツーカー九州  
(株)データ通信システム  
(株)ネクサス  
(株)パスター

(株)日立メディコ  
(株)ビーシーシー  
京セラ(株)  
熊本ゼロックス(株)  
西肥情報サービス(株)  
太平工業(株)  
東京エレクトロン F E(株)  
東京エレベータテクノス(株)  
道路通信システム(株)  
Victoria University of Tech.

## 建築学科

飛島設計(株)  
(株)穴吹工務店  
(株)エヌ・ティ・ティ・ファシリティーズ  
(株)柄谷工務店  
(株)北九積算センター  
(株)共同建築設計事務所  
(株)さとうベネック  
(株)船場  
(株)竹中工務店  
(株)パスター<sup>13</sup>  
九州旅客鉄道(株)  
大和ハウス工業(株)  
西日本旅客鉄道(株)  
西松建設(株)九州支店  
日設エンジニアリング(株)  
日本下水道事業団  
三井金属工業(株)  
三井ホームエンジニアリング(株)横浜支店  
有縁建築積算事務所  
ユニチカ(株)  
立建設(株)

## 工業化学科

NTT 九州移動通信網(株)  
(株)阿蘇製薬  
(株)ヒサシホラヤ  
(株)三井三池製作所  
(株)山口油屋福太郎  
関東化学(株)  
情報ビジネスセンター(株)  
大日精化工業(株)  
大日本インキ化学工業(株)  
天洋社薬品工業(株)  
東レ(株)  
トステム(株)  
日本科学冶金(株)  
日本触媒(株)

# 卒業生の表彰

## 成績優秀者

M	堀 隆之	E	久家 裕司	I	角 佳代子	C	徳永 倫子	A	一坪 博
---	------	---	-------	---	-------	---	-------	---	------

## 5年間皆勤者

M	堀 隆之	E	神保 将志	吉永 尚平	I	柏原 大人
---	------	---	-------	-------	---	-------

## 5年間精勤者

M	井上 勝治	E	井上 和哉	I	安藤 由美	C	内村 香	A	入江 智亮
	岡部 陽子		江見 勇作		池田 昌代		國崎 愛		
	鹿児島弘規		中司 宏		磯田 恵子		笹井亜紀子		
	川上 了		長野 善行		浦 理沙		本田 文		
	土井 義博		武藤 幹子		黒肥地なおみ		森 舞		
	馬田 雄一		吉田 猛		堤 千賀子				
	松井 洋一				西原 雄一				
	松野 正哉				二見 綾				
	吉田 義彦								

## 3年間精勤者

M	アイザック
---	-------

## 1年間皆勤者

M	堀 隆之	E	猿渡 優一	I	安藤 由美	A	入江 智亮
	松井 洋一		神保 将志		池田 昌代		
			吉永 尚平		柏原 大人		
					古賀江理子		
					二見 綾		

## 1年間精勤者

M	杉野 隆廣	I	浦 理沙	C	國崎 愛	A	下川 直樹
	松野 正哉		黒肥地なおみ		森 舞		鍋田秀一郎
	アイザック		堤 千賀子				
	矢野 敦之		西原 雄一				

## 学 生 表 彰

# 学寮だより

■ 1年間皆勤者 (1~4年生・154名)

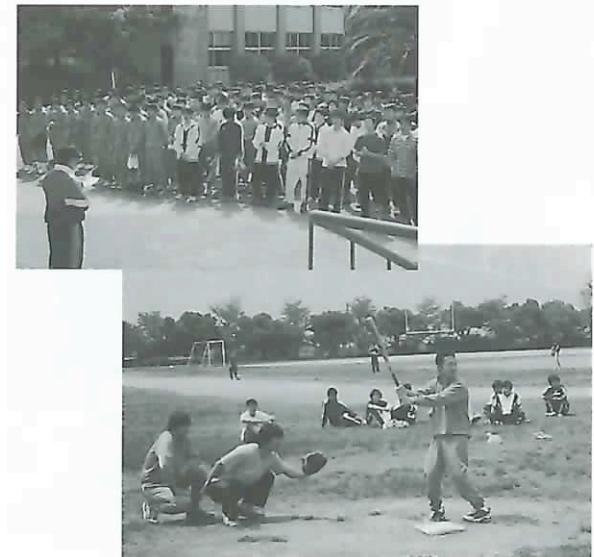
学科	氏名	学科	氏名	学科	氏名	学科	氏名	学科	氏名	学科	氏名
1M	井寺亮涉	II	田中正也	古閑志垣	美啓	野田隆	堤晋也	椿弘	椿口康宜	申健太	
	今任隆嗣		堤敏文		生野義朗	林剛志	藤丸和博		野口宜		
	甲斐新開		中村武勝		中司理江	司隆司			山本伸		
	田中優		永野裕己		原口智子	平川吉帆			山本健太		
	田中也		野田昂志		藤井陽介	松尾志帆					
	堤一起		橋口正	2M	吉積			4E	金田洋一	雅隆	
	田原大作		橋本孝文		井上精史	笠間清富	片山美樹		柳坂芳		
	中田翔		古江陽光		澤浩之	阪井努	境沙織		山下心		
	永原秀樹				金澤智史	永德	杉山香奈子		高田和		
	花原慎伍				狩野佑介	西田智美	松岡浩美		筒井貴		
	原田浩二				河野惠鄉	山田玲	宮崎尊秀		渡邊貞		
	松本和仁				平田健一	邊春聰男	佳代		平尾治		
	山口賢次郎				2A	田中紀子	川上真人	4I	吉田幸一		
	石丸健一郎					中尾明日美	岸本大志		橋渡和		
	井上義章					野口智恵	本田智也		猿渡友		
	大佐古勝					小池哲	田代友子		濱田穂美		
	釜田康次					古賀裕規	春口涉		吉田誠		
	川口健介			2E	高井賢	直高	山下満里子				
	興梠真理				田川武史	佳代		4C	上園誓子	也子	
	古賀隼平				田嶋貢	仁紀			城戸徳永		
	古賀康朗				手嶋一志	昭仁			中嶋純一		
	近藤靖泰				中山貞弘	貞弘			藤村咲子		
	近藤洋平				久岡努	光			森佳代		
	坂中新庄				山下	田			山由紀		
	瀬戸信博				3M	遠藤博文	井泰史	4A	中リズ	和アソ	
	田中達也					北島健介	洋治		猿渡孝治		
	秀樹					古園井	克史		猿渡健治		
						洋治	義和		渡直人		
						高	悦史		高正樹		
1E	鬼丸惠介	1A	廣松孝浩	2I	田中まゆみ			4M	板井孝治	大樹アン	
	久留見友治				壇上容康				猿渡健治		
									猿渡直人		
									高烟正樹		

■ 1年間精勤者 (1~4年生・136名)

平成10年度当初に行われた岱明寮における各種行事についてご報告いたします。

5E 游外 渡辺貞治

はピーチボールバレーの球技を行いました。心配された天候も好天に恵まれ楽しい一日になりました。総合優勝は寮長大和洋率いる「ドーンと熊本」でした。



### ■家族みたいな寮にしたい

1月6、7日、寮生指導者研修：大牟田ハイツにて寮務委員と寮生会役員24名で研修が行われました。

「家族みたいな寮にしたい」との寮務主事の挨拶があり、その後、指導者としての心構えや役員からの要望など熱心な討議が行われました。



## ■新人さんいらっしゃい

月9日、入寮オリエンテーション：学寮食堂にて入寮オリエンテーションが行われました。寮生活についての説明を受けた新入寮生は多少緊張した様子でしたが、熱心に説明を聞き入っていました。近い将来我が岱明寮を担っていく新入寮生の皆さん、厳しい寮生活にこそ学ばなければいけないことがつまっているのです。厳しい寮生活に耐えすればらしい寮生になってください。

## ◆平成10年度 岱明寮重点目標『清掃整理』

先日の新入寮生歓迎夕食会と同日に行われました寮生総会で本年度の重点目標が発表されました。これに我々執行部の「美しい環境の中にこそ美しい人間性が育まれる」という理念から考えられたものです。

我々寮生はこの重点目標を達成できるよう努力していきたいと思います。

◆今日から君も蜜牛だ!!

#### 有明高專全員寮生計畫

先日寮内で過去の卒寮文集と思われる文献を発見いたしました。その古い文献の中に興味深い部分がありましたので掲載いたします。「さあ、これを読んで今日から君も寮生だ!!」

- ・主事室…寮で一番偉い所とされている。放送でここに呼ばると少しビビリながら行かなければならぬ。
  - ・酒…エタノール及び諸成分の水溶液の総称。旧寮長曰く「飲むものであって飲まれるものではない」
  - ・貴様…福岡人がよく使う言葉（同）わら
  - ・女…寮生のほとんどがこのことについて悩む。これが人生。
  - ・マイキッチン…寮生でここの弁当を食べたことがない者はモグリである。

■優勝は「ドーンと熊本」

月18日、春季寮生球技大会：新入寮生の歓迎と寮生間の親睦を深めるために出身地区別にチームを編成し、男子はソフトボール、バレーボール、卓球、女子

(平成3年度“人生って感じ”第2集 寄生用語事典・改訂版より抜粋)

# 春季球技大会

5月29日に行われた春季球技大会は、朝からあいにくの空模様でしたが、屋内・屋外の各会場で学生・教職員とともに1日中熱戦が繰り広げられました。以下にその主な結果を報告します。

## ■成績

種 目	優 勝	準優勝	M V P
ソフトボール	5 M、事務(同時優勝)	5 M	猿渡直人
バレーボール	4 C	5 A	4 C 田代智也
女子バレーボール	3 I	5 A	3 I 田中綾
ソフトテニス	教官	4 E	4 E 藤丸和博
卓 球	1 I	2 C	1 I 坂口直剛

今大会では、各種目で好成績を残した5Mが総合力で最優秀クラスに輝きました。全体的な内容は、特に男女バレーボールの決勝・準決勝で上級生のレベルの高いプレーが目立ち、白熱した試合になっていました。また、グラウンドでも、雨で何度も中断されながらも応援が絶えることなく盛り上がっていました。

今大会での学生の団結力やがんばりは、秋に控えている体育祭も盛り上がり成功するような期待を持たせてくれました。



## 編・集・後・記

入学式、4年生研修旅行、春季球技大会等有明高専のあらゆる出来事をタイムリーにお知らせできるようスタッフ一同がんばっています。原稿をお寄せいただきました方々に厚くお礼申し上げます。これからも、皆さんからのたくさんの記事・写真をお寄せいただければと願っています。最後になりましたが、退官されました方々のご健康とご多幸を祈り、新任教職員の方々のご活躍を期待します。

有明高専だより 第95号

平成10年6月20日発行

編集・有明高専広報委員会

発行・有明工業高等専門学校

〒836-8585 大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-8611(庶務係)